

議 事 要 旨

【日 時】 令和6年10月29日(火)17:59 ～ 19:04

【場 所】 TV 会議(佐世保市中央保健福祉センター5階 危機管理室)

【出席者】 委員6名(1名欠席)

〈事務局〉深江保健福祉部次長、八木課長、八木課長補佐、守主査

◆評価委員会各委員の主な意見・質疑

■議題1 佐世保市総合医療センター第3期中期目標の期間の終了時の検討について

【意見】

佐世保市総合医療センターの業務継続等の必要性を確認した上で、検討内容・結果に対して意見はなし。

■議題2 佐世保市総合医療センター第4期中期目標の策定について

【意見】

佐世保市総合医療センター第4期中期目標(案)の修正等が必要となるような意見はなし。

【質疑等】○質問 ●回答

収支状況について【西野委員】

○R5 年度は黒字ではなかったということだが、実績を見ると、患者さんの数とかはそれほど減っているようにもお見受けしないが、R5 年度が赤字に転じた原因はわかっているのか？

●患者数については、コロナ禍からすると幾らか戻ってきているような状況がある。一方、患者数が戻りつつある状況で、費用面を申すと、やはり物価高騰の影響がかなり大きく影響しているところがある。

あともう1つは、コロナ禍の時には空床補填の補助金等があり、一定、かなり大きな額を補助金としていただいていたこともあり、それがなくなったという状況がある。

そういった中で、一定、各種施設基準等も取得はしながらも、一方では、物価高騰であったり費用面への影響が大きく、収支が赤字になったというような状況がある。

○多分この財務状況は、今後、大変重要になってきて、今おっしゃられたように、物価の高騰とか人件費とか人材を確保するとかという面でも、しっかりと収入を上げていくところを対策として立てる必要があるかなと思う。

つまり、今おっしゃられたように、今までは補助金の部分で少しマスクされていたところもあると思って、赤字に転じてから黒字に持っていきつつというのは、思っておられるよりもかなり難しいんじゃないかなと思ったんですけども、見通しとしては戦略というかその辺はあるのか？

●おっしゃられる通り、非常に厳しい状況であるのはもう間違いないとは思っている状況である。

病院の方にも、当然、まずは収益の確保といったところで取り組んでいただく必要があるかなと思う。

あとは、費用面の方も見直しながら、今おっしゃられたように、人件費がもう全国的に上がっているの、おそらく、そこが収益面以上に人件費が上がっていくというのは今後も十分に留意する必要があると思っている。

そういった中ではあるが、中長期的な収支計画と見直しについては最大の懸案事項なので、病院とそういったところを含めてお話しする中では、一定、R12 年度ぐらいには黒字化できるのではないだろうかということで話を進めているところではあるが、色んな要素があり、今後の国の動き等もある。

地方創生とかいったような話も出ているので、また費用面等々に影響しなければいいなどは思っているが、診療報酬改定も、一定、物価高騰等も見据えた改定にはなっていると聞いているが、実際、実態を見るとなかなかそうならないような状況もあるので、そういったことを含めながら、収入の確保に努め、費用面をどう抑えていかと両にらみで取り組んでいく必要があるかと思っているところである。

○大学もかなり厳しい状況のまま好転しないので、やはりなかなかその厳しさというのは私も理解するが、最後に、建て替えのお金は、今後固定していくと非現実的になっていくのか、それとも建て替えは別個にやっぱり進めていけるのか、そのところはどうか？

●そこは建て替えだけにとらわれずに、長寿命化も含めながら検討し最適化していく必要があるかと思う。

それに加えて、当然、今後人口減少社会という中で、病院のサイズといったところを十分に検討を加えながら、どういったサイズの病院にしていくのかいうところを検討しながら進めていく必要があるかと思う。

一方、費用面であるが、そこは当然、行政としての関わりもあるので、地方債制度もあるのでそういった制度を活用しながら、もし建て替えとなった場合は建設をしていくようになっていくのではないかと思っている。

それは、今の病院のときもそうであり、かなりの額にはなるかと思うが、そういった地方債制度を活用しながらの建設になっていくのではないかと思っているところである。

患者アンケート・収益の確保について【古賀委員】

○「アンケート等により実態等を把握し」というくだりがあるが、以前はアンケートとかは特に取っていなかったということか？

●アンケートは例年とらせていただいている。そういった中で、より中身というかサンプルというか、そういったところを当然増やししながら色々なご意見を賜りたいという状況の中で、もう1つは、ここには市長も少しこだわりがあり、やはり選ばれる病院となるためには、病院の中の環境といったところもきちんとアンケートなどで実態を把握・分析しながら、選ばれる病院になるようにというような思いがあったので、改めてここで追記をさせていただいている。

○患者さん、住民の方に話を聞くと、やはり総合病院は立派な病院なので敷居が高いというようなことをよく言われる。紹介状を持って行かないとみてくれないとか。そういうことで、やっぱりこういうアンケートを使ったりとか、市の広報を使ったりとか、そういう発信を地道にしていけるというか工夫されるということも、西野先生もおっしゃったが、収益を高めていくような要因になると思う。

それと同時に、駐車場とか中に入っているお店とかの賃料等々を物価上昇に応じて上げるというのは病院の収益に関わってこないのか？そういう努力もできるのかどうか、そういう余地があるのかどうかということでお聞きしたい。

●なかなか事務局の方からお答えしにくいところでもあるが、収益面ということを見ると、色々なことを検討する必要が出てくようかと思う。

そういった中では、当然、駐車場の料金も上げるとダイレクトに収入に影響してくるので1つの手かと思っているが、今の料金体系を決定してきたような環境とかもあるので、あと周辺の駐車場の代金も見ながらといった設定も必要になってくようかと思うので、そこを選択肢の1つとして考えていってもいいのかなとは思っているところである。

剰余金の使途計画について【安部委員】

○61億のいわゆる剰余金がある。普通、例えば、計画的に言えば、年間このぐらいの剰余金をずっと積み立てていく、そして積み立てたときの目的はこういうものにするという、そういう計画はあるのか？

●実はこの61億という剰余金は、先程の西野委員の質問にも関連してくるが、コロナ禍における国からのコロナ対応の補助金が多くを占めており、ここ数年でこれだけの金額になったという状況があり、まさに今、この61億をどう今後整理し、目的別に使っていこうかといった計画を現在立てている状況である。今、明確にお示しする状況にはないが、この61億をどういうふうに使っていくのかといったところは検討している状況である。

例えば、先程、建て替えの話もあったが、一部の資金にするとか、あとやはり収支が厳しいという状況があるので、もしかするとあつという間にここが食いつぶされてしまう可能性もあるという側面もあるので、今後のその使い道については、慎重に検討し、計画を立てていく必要があるかと思っている。

ボランティアの活用・アンケートについて【橋本委員長】

○第3期中期目標で「患者サービスの向上」で、ボランティアの活用ということが書かれおり、R5年度の評価としてはその取組がAということで評価されている。

新しい中期目標ではそれが削除され、アンケート等でサービスの向上を図っていくということだが、第3期中期目標の中で取り組まれたことはもうされないという理解でいいか？

●そこは引き続きやっていく予定にはしている。

今回の文言整理の中で、アンケートの方を重視しながら記載しているので、今、委員長がおっしゃられたようなボランティアについても引き続き取り組んでいくというような状況である。

○アンケートに関して、実態をお尋ねになられるということだが、具体的にはどのような項目で、どんなことをお尋ねになられるのか、もし構想があれば教えていただきたい。

●現在のアンケート内容等もさらに整理・精査をしながら、より実態がわかるものをしようとは思っている。

現在、年代・性別ごとに、総合医療センターを選択した理由とか満足度というのを照会している状況である。

そういった内容も少し精査しながら、というのも、総合医療センターにおけるアンケートの昨年度の回答者数が266人であり、実は回答者数・サンプルの数としてはちょっと少ないかなと思っているような状況があり、まずはここをどう増やしていくかというところを検討する中で、少しアンケート内容も精査しながら回答数を増やすということで考えている。

○先程、古賀委員からもご指摘あったが、総合医療センターとか大きな病院は敷居が高いとかそういうふうにお感じの市民の方とかもいらっしゃるのかなと思うので、そういう声が拾えるようなアンケートになればいいかなと思った。